

総合演習Ⅱにおける参加型授業の意義と課題

—教職課程の学生に身につけさせたいコミュニケーション力との関連から—

秦野 玲子

はじめに

筆者が平成14年から実践している小・中・高教員のための参加型人権研修実施校は、通算36校にのぼる。研修参加者の教員から「子どもたちのコミュニケーション能力が落ちてきている」という言葉が聴かれることが年々多くなった。と同時に、研修の中でも、教員自身の「コミュニケーション体力」が弱ってきている、つまり、コミュニケーション能力は持っていますが、それを発揮するための支えとなる力が落ちているのではないかと感じる事象がみられる。そこで、本稿は、2007年から半期を受け持っている「総合演習Ⅱ」における、授業の実践のふりかえりをおして、教職を目指す学生の「コミュニケーション能力」とそれを支える「コミュニケーション体力」の育成にかかる参加型授業の意義と課題を検討する。

1. 授業をおして身につけさせたい力

教員には、児童生徒及び、教員間や保護者とのコミュニケーションが大切であることは、改めて述べるまでもない。さらに近年の学校と地域との協働の必要から、地域の方々とのコミュニケーションも非常に大切であり、これまで以上にコミュニケーション能力が求められている。

しかし、コミュニケーション不足あるいはコミュニケーションの失敗による問題も学校をめぐる課題として多く発生している。

本授業では、学生に参加体験型の授業運営方

法を学ばせることが目的ではあるが、児童・生徒の力を引き出し得る教員となるためにも、保護者や地域の方たちと、円滑なコミュニケーションを取れるようになるためにも、基本となる「コミュニケーション能力」とそれを支える周辺力「コミュニケーション体力」を、授業をおして身につけさせたいと考えた。

コミュニケーション能力とは能動的な傾聴と適切な自己表現ができ、相手との関係作りのプロセスをともに作り、自他の要求を満たせる解決方法を見出して実現させる能力である。

そのために養いたい具体的な力は

- ・自己開示を恐れず、意見を述べられる
- ・相手の話を聴きとることができる
- ・相手にしっかりと視線と声を届けられる
- ・沈黙を恐れない
- ・感情を建設的に表現することができる
- ・異なる意見の合意に向けて積極的に関わることができる
- ・要約、適切な質問をすることができる
- ・想像力、共感的な理解力、豊かな感性
- ・自分の意見を変えることを恐れない

これらの力を支えるコミュニケーション体力は

- ・省察力
- ・好きなもの、得意なことがあること
- ・様々な分野への関心
- ・どんな相手とも共に学ぼうとする気持ち

- ・民主主義の主体としての公共性
- ・自分を表現する手段がいくつかあること
- ・色々な分野に友だちがいること
- ・きちんとした姿勢を保てること
- ・人権感覚 (人権知識と関心, それを行動, 態度に表す力)

これらを総合した「コミュニケーション力」を養うために, 互いの人権を守りあいながら, 折り合い地点を見つけ, 合意に導く力をつけること, そして, 体験を知識とつなぎあわせて, 表現できる力を身につけることにつながる授業展開を試みた。

2. 授業の概要と運営による工夫

(1) 授業内容

ワークショップ体験や, 学習活動作成演習により参加型学習の手法や課題を学ぶとともに, 自らの価値観や, 他者との関わり方の傾向に気づき, コミュニケーション力を身につける。

(2) 授業計画

表1 授業計画

- | |
|--|
| <p>1. 「参加型学習」とは何か</p> <p>(1) 参加型学習を体験的に学びながら手法や進め方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加型学習に使われる手法Ⅰアイスブレイク ・参加型学習に使われる手法Ⅱグループワーク①
(正解のない課題) ・参加型学習に使われる手法Ⅲグループワーク②
(正解のある課題) <p>2. 学習課題と参加型学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権学習 ・問題解決型学習 <p>3. 参加型学習とファシリテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加型における学習支援のあり方 ・ファシリテーション型学習支援の留意 |
|--|

点

4. 学習活動作成演習

- (1) アイスブレイクの作成と実習
- (2) グループワークの作成と実習

5. 参加型学習における課題

(3) 授業運営

参加体験型の手法を用い, 講義のみでなく対話や記述, グループによる討論などを組み合わせたワークショップにより進めた。

授業計画は, 次の意図のもとに立てた。

導入の, 1. 参加型学習を体験的に学びながら手法や進め方を知る単元では,

- ①アイスブレイクという手法を学ぶと同時に, 学生同士が安心して学び合える関係作りとする。
- ②常にひとつの正解を求められることに慣れている学生に, 正解のないグループワークをさせて, 自己の価値観の認識と他者の価値観の理解につなぐとともに, 意見は多様で良いことを体感させる。
- ③互いの持つ情報を正しく伝え, 聴きあい, 力を合わせ, 正解にたどり着く課題をこなすことで, 自分が意見をいうことの大切さと, 協調性, 合意による達成感をめざす。

2. の学習課題と参加型学習の単元では

- ①参加型人権学習の方法を学ぶことをとおして, 自己の人権意識を磨く
- ②対立関係を解決するための手法を体感する

3. 4については, 教員が「こうあるべき」という正解を提示するのではなく, 互いの考えを寄せ合い, あるべき姿を各自が模索し, それを実践する練習の機会とするとともに, 互いの演習を評価することで, 課題に対する問題意識を自ら整理する機会とする。

(4) 授業時の学生の様子と運営の工夫

参加する学生のコミュニケーション力の無さとして, 青年期特有の他者の視線を過剰に意識するという特質を差し引いても, 次の様子が特

に気になった。

- ・ 妙にはしゃいだりおどけたりするが、肝心な意見は言おうとしない。
- ・ 教員の問いかけに反応をみせない。
- ・ 教室の端に座り、問いかけるまで声を発しない。
- ・ 教室の中ほどにいても、声が教卓まで届かない。
- ・ 決め付けた言い方で意見を言う。
- ・ グループの話し合いで友人とだけ話す。
- ・ 机にひじや上半身を預けたまま人と話す。そこで、授業の中で以下の工夫を行った。

工夫点

授業の初回のみでなく、学生と教員、学生同士の信頼関係、安心できうる関係づくりのために時間を十分にかけた。

- ・ 学生同士がひとりひとりと丹念に話し合える自己紹介ワーク
- ・ 数種類のアイスブレイク
- ・ 問いかけを多くし、学生に考えさせ、意見を引き出す。その際には「ゆっくり考えてからが良い」と沈黙を認める。
- ・ 毎回の授業では、質問に答える様式のふりかえりカード（*表2）を用い、何を学び、何に気づき、次回のどう活かすかを考えさせる機会を作った。
- ・ ふりかえりカードは、毎回全員分を無記名で一覧にし、次回の授業の始めにそれを読み合う時間を設け、互いの受け止め方を共有できるようにした。
- ・ 意見を述べるのが苦手な学生に対しては、ふりかえりカードに記入してあった言葉をひろい、それを褒めて、全体に紹介し、自分の意見に自信をつけさせる。
- ・ 毎回グループ編成を変え、特定の親しい友人と同グループにならないように配慮した。その際も、ゲーム性を持たせたグループづくりをして、偶然の出会いの楽しさを味わえるようにした。

- ・ 姿勢の悪い学生には、直接姿勢を注意せず、教員が姿勢を低くして向き合うようにすることで、学生が自然に身体を起こすようにした。
- ・ 意見を強く主張する学生に対しては横に椅子を置いて座り、「他の考え方はないかな。〇〇さんも同じ考え？」と、意見を述べにくい学生に問いかけ、反対意見が出やすくなるようにした。

表2 ふりかえりカードの例

<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の意見をきちんと述べることができましたか はい いいえ → いいえの場合、次回はどのようにしたらよいと思いますか？ ・ 互いの意見を尊重できましたか はい いいえ → いいえの場合、次回はどのようにしたらよいと思いますか？
--

このような働きかけを繰り返すことで、学生の気になる様子は少しずつ改善された。

自信がなさそうに小さな声でぼそぼそと話す学生も、教室全体に届く声で発表ができるようになり、攻撃的な話し方をしていた学生も、他者が意見を言い終わるのを待ち、「俺はこう思うのだけれど、」とクッションを置いて意見を言う姿が見られるようになった。

学生のレポートにも、「始めは、考えたり意見を言ったりしなければならぬこの授業が苦痛でたまりませんでした。後半になると少しずつみんなと話すことが楽しくなってきました。」という記述がみられた。

3. 授業により養われた力

(1) 学生のレポートにみる身についた力の自己分析

最終レポートの課題のひとつである、この授業を受けて、あなたが得たもの、あなたについて力はどんなものですか、という問いに対する

学生の記述を一部抜粋する。

- ・相手の立場にたって考える力がついた。
- ・ひとつのことを達成するために、自分の意見をきちんと言い、他人の話聞いて自分の意見を変えたりというバランスが大切だと分かったことと、自分の考えと他人の考えをうまく絡めて考える力がついた。
- ・障害者や、権利が守られていない人のことを知り、自分に関係いではなく、様々なことに関心を持つようになった。
- ・自分の意見をしっかりと持つことができるようになったこと。そして伝えられるようになったこと。
- ・一番身についたのは、積極性。言葉に出さなければ相手に伝わらない。きちんと説明することの大切さを知った。また、障害を持つひとの立場を考えたことで、改めて小さなマナーを守ることが大切だと気づいた。
- ・自分本位で動くのではなく、他のひとのこともちゃんと考えながら、積極的に関わる力。
また、人権などについての広い視野を持つようになり、日常も少し意識して行動するようになった。
- ・思いやるということが大切だという考えが身についた。また、それを行動に移す力もついたと思う。発表などで、みんなの前に立つことに少し慣れた。
- ・自分の意見を言え、人の意見を聴けるようになった。当たり前のことだけれど、大学生になって、こんな風に考える機会が少なかったので、この授業を受けてそう思った。
- ・参加型という学習方法を知ったこと。小中学生のときにも同じようなことをしていたが、ただのレクリエーションのように思っていた。学習のための企画の段取り、実行するときの注意などが身についた。
- ・今まで、積極的に発言することがなかったが、発言する力がついたと思う。また、みんなの前で話すことにも慣れた。反面、自分の課題

にも気づいたのでとても意義ある時間だった。

- ・話し合うときにどのような視点から考えれば理解しやすいか、どんな注意が必要かなどのコミュニケーション能力がついた。「話す」「聴く」「考える」という3つの力が向上したと思う。また、自己をふりかえり、考えるといった、これまであまりしなかった事を得ることができた。
- ・協調性。一人では乗り越えられないもの、仲間の大切さを改めて思い知った。もうひとつは自己主張力。誰かがやってくれるだろうという考えをしなくなってきた。みんなが「自分がやらなければ」と思えば自然とグループの話し合いもスムーズに行くことがわかってきた。
- ・一番の力は協調性だと思う。ふりかえりシートを見ても、自分の意見を押し通すだけでなく、人の意見を聞き入れて、みんなで考えながら、自分や班の考えをまとめられるようになった。これは同時に、視野が広がったのではないかと思う。同じ年齢や社会人のひとなど様々な人と話し合うことで、知識も少し膨らんだ気がする。

(2) 身につけさせたい力との関係

学生がレポートに身についた力としてあげたものと、身につけさせたい力との関係は表3のとおりである。

4. 今後の課題と展望

多様な価値観に触れうるためには、一定の人数が必要である。と同時に、学生の様子や小さな変化に気づき、声かけをするためには、多人数では不可能である。これらのことから、現在の20名という枠は適切である。しかし、20名に達しない年がある。また、年々、基礎的なコミュニケーション能力が身につけていない学生が増えてきているため、半期という短期間で養い、定着させることのできる力は限られる。

これらのことから今後の本授業内でのコミュ

表 3

自己分析による力	身に付けさせたい力
自分の意見を持つことができ伝えられる力	自己開示を恐れず、意見を述べられる
発言力・自己主張力	
意見を伝える力	
話す、聴く、考える力	自己開示を恐れず、意見を述べられる 相手の話を聴きとることができる 省察力
相手の立場に立って考える力	相手の話を聴きとることができる
自分の意見を言い、相手の意見を聴く力	相手の話を聴きとることができる 積極的に、異なる意見の合意に向けて関わる ことができる
自分本位でなく他人に配慮しながら積極的に関 わる力	積極的に、異なる意見の合意に向けて関わるこ とができる
自分の考えと他人の考えをうまく絡めて考える 力	
協調性	
みんなの意見をまとめる力	相手の話を聴きとることができる 要約、適切な質問をすることができる
視野の広がり	様々な分野への関心
人権や様々なことへの関心	様々な分野への関心 人権感覚
思いやりを大切に思う気持ちとそれを行動に移 す力	人権感覚
自分をふりかえり考える力	省察力

ニケーション力の育成については、以下の点を課題として挙げる。

- ①少人数でも多様な価値観が出やすいアクティビティの開発
- ②短期間に自己開示し、コミュニケーションの楽しさを実感させる運営のさらなる工夫
さらに、もうひとつ大きな課題として、総合演習Ⅱの授業の大きな目的である、学生が参加体験型の授業運営の方法を会得するという点については、まだ不十分な点である。

筆者自身が更なる学びを重ね、教職を目指す学生が力をつけられる授業となるよう、努力を続けることで、こうした課題の解決につなげた

い。

参考

(文部科学省「人権教育の指導方法などに関する調査研究会議」第二次とりまとめ平成 18 年)